様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：８３９０３
研究種目：基盤研究(B)（特設分野研究）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６ＫＴ００１４

研究課題名（和文）認知症高齢者の幸福感と社会参加：社会実装に向けたエビデンスの構築

研究課題名（英文）Well-being and social participation among people with dementia: evidence aiming at social implementation

研究代表者
斎藤　民（Saito, Tami）

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・老年学・社会科学研究センター・部長

研究者番号：８０３２３６０８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、急増する認知症者を支える仕組みづくりを目指すための科学的根拠となる基盤的研究成果を得ることを目的とした。認知症発症リスクの高い集団や認知症者を多く含む患者集団を対象とした研究から、彼らの社会との関わりの中には比較的維持しやすいものもみられるものの、総じて関わりが少ないこと、またこうした関わりがあるほど認知症発症や死亡といったその後の予後が良好である可能性が示唆された。他方、認知症者の社会参加や幸福感の視点から、本研究では孤独感尺度日本語短縮版を検証し認知症者への測定可能性を確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
認知症者のケアに関する研究の多くは医学的視点によりなされてきた。本研究の実施により、これらの知見に認知症者のサクセスフルエイジングという社会科学的な視点を加味し、認知症者本人の社会参加や幸福感の側面からいくつかの科学的根拠を得ることができた。本研究は認知症者が患者としてだけではなく生活者としてより良く生きるあり方を検討する基礎資料に位置づくものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This research conducted several basic studies aiming at developing a support system for people with dementia. From our studies conducted on people with a high risk of developing dementia and patients diagnosed with dementia, we revealed that some domains of their social relationships are better maintained than the others. However, the participants had relatively poor social relationships in general. Additionally, several social relationship factors reduced the risk of developing dementia and mortality. We also examined the validity of a Japanese short version of a loneliness scale and confirmed its feasibility for people with dementia.

研究分野：公衆衛生学

キーワード：認知症　社会参加　幸福感

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

認知症者が急増する中、彼らを支える仕組みづくりとそのためのエビデンス構築がますます重要といえる。これまで認知症者に対する治療やケアといった医療的側面においては数多くの知見がみられる一方、生活者としての認知症者をより社会科学的側面から捉えた研究は十分とはいえない。

社会老年学の領域では、高齢者の肯定的側面を評価するサクセスフルエイジングの枠組みにおいて、これまで社会参加と主観的幸福感に関する数多くの研究がなされている。しかしサクセスフルエイジングの当初の概念には、高齢者が認知症などの疾患や障害を持った後の人生は想定されていない。認知症者が急増するなか、認知症を抱えて生きる人のサクセスエイジング、ないし社会参加継続や幸福感について検討することが重要と考えられる。

２．研究の目的

本研究では、社会科学的視点と医学的視点の融合から、認知症者やその家族の生活の質を高めるあり方を検討するための基盤となるエビデンス形成を図ることを目的とした。具体的には、以下の 3 点を実施した。

(1) 既存の縦断的観察データや新規に構築した縦断データの解析から、認知症ハイリスク者あるいは認知症者を多く含む患者集団を対象に社会活動参加やそれを包含する社会関係の特徴を把握すること
(2) 社会関係と認知症発症や死亡といった予後との関連を把握すること
(3) 主観的幸福感の視座から、認知症者において測定可能な評価尺度を検討すること

３．研究の方法

(1) 認知症ハイリスク者における社会関係および認知症発症との関連（Saito ら，2017）

日本老年学的評価研究（JAGES）が 2003 年に愛知県内の 10 自治体において実施した 65 歳以上の要介護認定非該当男女 33152 名への自記式調査の回答者のうち、その後約 10 年間の要介護認定情報を突合できた 15313 名からなる縦断データを使用した。本課題ではこの JAGES データを用いて 2 つの研究を実施した。

①認知症ハイリスク者におけるグループ活動参加とその後の認知症発症との関連

竹田ら（2016）が開発した認知症リスク得点に基づき、認知症リスク得点別に対象者を 5 分位にし、発症リスクが非常に低い第 1 分位の者（2749 名）とリスクが最も高い第 5 分位の者（1750 名）を分析対象とし、グループ活動参加状況を 2 群で比較するとともに、それぞれの群において認知症発症に関連する活動内容を検証した。認知症発症については要介護認定時の認知症高齢者の日常生活自立度評価 IIa 以上の者を「認知症発症あり」とみなした。社会参加については、「趣味の会」「スポーツのグループ」「宗教団体」「同業者団体」「ボランティアのグループ」「政治団体」「市民運動」「町内会・老人クラブ」の 8 つのグループ活動への参加有無を把握した。その他、性、年齢、教育年数を把握した。

②主観的認知障害（SCI）のある高齢者における社会関係と認知症発症との関連（Saito ら，2018）

同データセットのうち、SCI のある者 2072 名について、社会関係と認知症発症との関連を検討した。認知症発症については上記の操作的定義を用いた。社会関係として対人関係の質的側面を表すソーシャルサポートとして「同居家族」「別居子・親族」「友人・知人」とのサポート交換の有無、量的側面を表すソーシャルネットワークとして「配偶者有無」「別居子・親戚との交流有無」「友人・知人との交流有無」、社会活動として「グループ活動への参加有無」および「就労」の計 8 項目を測定した。その他年齢、性別、社会経済状態、疾患や抑うつなどの健康指標、身体・余暇活動を把握した。

(2) もの忘れ外来受診者における社会活動参加状況と死亡との関連

国立長寿医療研究センターもの忘れ外来を 2010 年 6 月～2018 年 9 月までに受診した者のうち、3106 名について受診後からの死亡状況と受診時データとの突合を行うことができた。本研究ではそのうち、社会活動参加状況に回答した 1966 名を対象に、社会活動参加と死亡との関連を検証した。

死亡については、受診後から 5 年間の死亡および死亡まで日数を把握した。老人クラブ等地域のグループ活動等への参加については、「積極的に参加」「ときどき参加」を参加ありとし「ほとんど参加なし」「参加なし」を参加なしとした。その他、性、年齢、教育年数を把握した。

(3) 孤独感尺度日本語短縮版の検証と軽度認知症者への適用可能性の検討（Saito ら，2019）

UCLA 孤独感尺度は日本語においては 20 項目版がすでに検証され（舛田ら，2012）、より簡便な 3 項目版についても英語では検証されている（Hughes ら，2004）。そこで本研究ではまず日本語 3 項目版についての検証を行い、そのうえで軽度認知症者ならびに軽度認知障害を有する人への測定可能性を予備的に検討した。

①尺度の検証

舛田ら（2012）の日本語訳をもとに改めてバックトランスレーションを行い最終的な日本

語項目を決定した。1 自治体における 65 歳以上住民を対象とした調査において測定し、分析対象の 536 名において、項目分布や欠損の程度を確認した。さらに各項目間の数値的なまとまりの良さを表す内的整合性を確認するとともに、抑うつ度やソーシャルネットワーク、ソーシャルサポートといった既存の調査項目と孤独感尺度との相関関係が舛田ら（2012）および Hughes ら（2004）の先行研究と同様かどうかの観点から妥当性を検証した。

②軽度認知障害ならびに軽度アルツハイマー型認知症者における測定可能性の予備的検討

国立長寿医療研究センターを受診する 65 歳～89 歳までの 6 名を対象に当該尺度を測定し、測定可能性を確認した。

４．研究成果

(1) 認知症ハイリスク者における社会関係と認知症発症との関連

①認知症ハイリスク者におけるグループ活動参加とその後の認知症発症との関連

リスク高群のグループ活動への参加状況についてみると、「宗教団体」への参加以外はいずれも低群と比較して少なかった。特に「スポーツのグループ」への参加割合はリスク高群では 6.9％、低群では 42.3%と約 6 倍の差がみられた。リスク高群で最も参加割合が高いグループ活動は「町内会・老人クラブ（54.7%）」といった地縁的な組織であった（表 1）。

表 1.グループ活動参加割合の比較

	低リスク群（2749 名）	高リスク群（1750 名）	p 値
趣味(%)	47.1	17.8	<.001
スポーツ(%)	42.3	6.9	<.001
宗教(%)	12.3	13.4	.341
同業者(%)	16.2	6.7	<.001
ボランティア(%)	18.6	4.2	<.001
政治(%)	11.5	5.6	<.001
市民運動(%)	7.1	2.6	<.001
町内会・老人クラブ(%)	64.0	54.7	<.001

グループ活動への参加とその後の認知症発症との関連について分析（Cox 比例ハザードモデル）した結果、性や年齢、教育といった個人特性の影響を調整しても、リスク高群では、「スポーツの会」に参加する者では、参加しない者と比較して認知症発症リスクがおよそ 34%低く、「町内会・老人クラブ」に参加する者ではおよそ 17%リスクが低かった。

②SCI のある高齢者における社会関係と認知症発症との関連

分析の結果、年齢、性別、社会経済状態、疾患や抑うつなど、様々な個人特性の影響を調整しても、SCI のある高齢者においては、有配偶者は無配偶の者と比較しておよそ 20%、友人や知人との交流がある者はない者と比較しておよそ 34%認知症発症リスクが低かった。

(2)もの忘れ外来受診者における社会参加状況と死亡との関連

受診者の 27.4%は受診の時点で何らかの地域活動に参加していた。分析の結果、性、年齢や教育歴の影響を調整しても、活動に参加ありの者はなしの者と比較しておよそ 28%死亡リスクが低かった（図 1）。

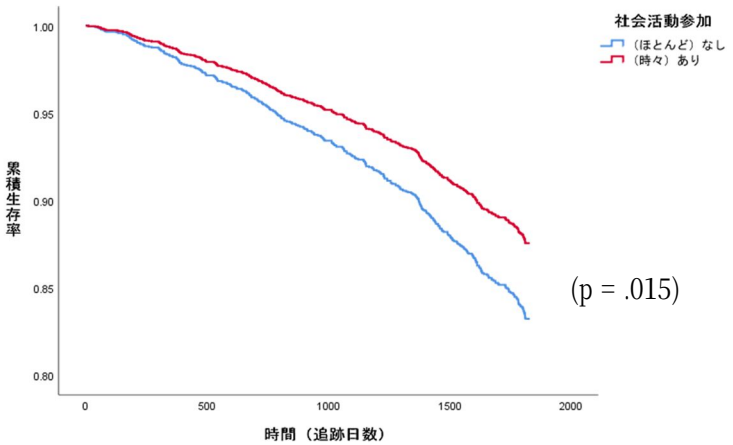

図 1.社会活動参加別の累積生存率（5 年間）

(3) 孤独感尺度日本語短縮版の検証と軽度認知症者への適用可能性の検討

①65 歳以上一般住民における検証

日本語 3 項目版は欠損値も 2%程度と少なく、内的整合性を示すクロンバックのα係数も 0.84 と高かった。また抑うつ度やソーシャルネットワーク等との関連についてみると、既存研究とほぼ同様の相関関係を得ることができた。

②軽度認知障害ならびに軽度アルツハイマー型認知症者における測定可能性の予備的検討

面接調査法を用いて測定した結果、平易な質問文で選択肢数が多すぎず困難なく測定で

きることを予備的に確認した。

(4)考察・結論

認知症発症リスクが高い集団あるいは発症者を多く含む患者集団において、社会活動参加やソーシャルサポート、ソーシャルネットワークが予後を改善する可能性が示された。一方こうした人々の社会参加には、継続が比較的容易なものとそうでないものがあることが示唆された。社会活動の参加割合を例とする本研究での分析結果からは、地縁的なグループ活動はその他の活動と比較して継続が比較的しやすく予後にも良好な可能性が示唆された。引き続き認知症発症後の社会参加のあり方を検討するとともに、その効果検証を進めていく予定である。他方、認知症者の社会参加状況や主観的 well-being においていくつか測定可能なアウトカムを確認し、本研究ではこれらのうち孤独感尺度日本語短縮版について検証を行い、実際に認知症者による測定が可能であることを予備的に確認した。今後実際にこれらの指標を用いて認知症者の社会参加や幸福感といった社会科学的視点から一層研究を推進する予定である。

＜引用文献＞

Hughes ME, Waite LJ, Hawkley LC, Cacioppo JT. A short scale for measuring loneliness in large surveys: results from two population-based studies. J Aging Res 2004; 26: 655-672.

Saito T, Cable N, Aida J, Shirai K, Saito M, Kondo K. Validation study on a Japanese version of the 3-item UCLA loneliness scale among community-dwelling older adults. Geriatrics & Gerontology International 2019;19:1068-1069.

Saito T, Murata C, Saito M, Takeda T, Kondo K. The influence of social relationship domains and their combinations on incident dementia: a prospective cohort study. Journal of Epidemiology and Community Health 2018;72:7-12.

Saito-Kokusho T, Takeda T, Ojima T, Saito M, Murata C, Hirai H, Suzuki K, Kondo K. Sports group participation reduces the onset of dementia among high-risk older adults. The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, San Francisco, United States, July 24 , 2017.

舛田ゆづり，田高悦子，臺有桂．高齢者における日本語版 UCLA 孤独感尺度（第 3 版）の開発とその信頼性・妥当性の検討．日本地域看護学雑誌 2012;15(1):25 -32.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計9件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 Saito T, Oksanen T, Shirai K, Fujiwara T, Pentti J, and Vahtera J	４．巻 -
２．論文標題 Combined effect of marriage and education on mortality: A cross-national study of older Japanese and Finnish men and women	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Journal of Epidemiology	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 Saito T, Cable N, Aida J, Shirai K, Saito M, Kondo K	４．巻 19(10)
２．論文標題 Validation study on a Japanese version of the 3-item UCLA loneliness scale among community-dwelling older adults	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	６．最初と最後の頁 1068-1069
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ggi.13758	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 Ishihara M, Saito T, Sakurai T, Osawa A, Ueda I, Kamiya M, Arai H	４．巻 19(10)
２．論文標題 Development of the Positive Photo Appreciation for Dementia (PPA-D) program for people with mild cognitive impairment (MCI) and early-stage Alzheimer's disease: a feasibility study	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	６．最初と最後の頁 1064-1066
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ggi.13739	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 斎藤民，近藤尚己	４．巻 75(10)
２．論文標題 高齢化する大規模団地での保健活動 そのチャンスと課題	５．発行年 2019年
３．雑誌名 保健師ジャーナル	６．最初と最後の頁 816-821
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Saito T, Murata C, Jeong S, Inoue Y, Suzuki T	4．巻 18
2．論文標題 Prevention of accidental deaths among people with dementia missing in the community in Japan	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6．最初と最後の頁 1301-1302
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ggi.13443	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Murata C, Saito T, Saito M, Kondo K	4．巻 16(2)
2．論文標題 The Association between Social Support and Incident Dementia: A 10-Year Follow-Up Study in Japan	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Int. J. Environ. Res. Public Health	6．最初と最後の頁 239
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/ijerph16020239	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Ishihara M, Saito T, Sakurai T, Shimada H, Arai H	4．巻 15(7)
2．論文標題 Effect of a Positive Photo Appreciation Program on Depressive Mood in Older Adults: A Pilot Randomized Controlled Trial	5．発行年 2018年
3．雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6．最初と最後の頁 E1472
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/ijerph15071472	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 鄭丞媛，井上祐介，斎藤民，村田千代栄，鈴木隆雄	4．巻 17(2)
2．論文標題 認知症の徘徊により行方不明になった者の特徴と自治体の徘徊対策の現状：A県の全市町村を対象にした調査から	5．発行年 2018年
3．雑誌名 認知症ケア学会誌	6．最初と最後の頁 457-463
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Saito Tami、Murata Chiyoe、Saito Masashige、Takeda Tokunori、Kondo Katsunori	4．巻 72
2．論文標題 Influence of social relationship domains and their combinations on incident dementia: a prospective cohort study	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Journal of Epidemiology and Community Health	6．最初と最後の頁 7～12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/jech-2017-209811	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計17件（うち招待講演　2件／うち国際学会　12件）

1．発表者名 Tami Saito
2．発表標題 Studies on social relationship factors of incident dementia using the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES) data
3．学会等名 ESRC Workshop: Cognitive ageing and dementia: Perspectives from the UK and Japan（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 Tami Saito, Chiyoe Murata, Masashige Saito, Katsunori Kondo
2．発表標題 Availability of informal and formal supports and their correlates among Japanese older men and women
3．学会等名 The 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 Murata C, Nakamura H, Saito T
2．発表標題 A pilot intervention to promote psychological well-being among older persons in Japan
3．学会等名 The 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 斎藤民
２．発表標題 認知症等による高齢者の行方不明の動向
３．学会等名 第9回日本認知症予防学会学術集会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Ishihara M, Saito T, Sakurai T, Osawa A, Ueda I, Kamiya M, Arai H
２．発表標題 Assessment of the Feasibility of a Positive Art Program for Dyads of People with Dementia and their Caregivers
３．学会等名 The 6th World Congress on Positive Psychology(WCPP)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 斎藤民，村田千代栄，斉藤雅茂，近藤克則
２．発表標題 高齢者の受援力とその関連要因：困りごと相談相手に基づく類型化とその特徴
３．学会等名 第61回日本老年社会科学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tami Saito-Kokusho, Naoki Kondo, Jun Aida, Chiyoe Murata, Masashige Saito, Toshiyuki Ojima, and Katsunori Kondo
２．発表標題 Residency in public and private rental housing and risk of mortality among older adults in Japan
３．学会等名 The 146th American Public Health Association (APHA) Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Chiyoe Murata, Tami Saito-Kokusho, Tokunori Takeda, and Katsunori Kondo
２．発表標題 Gender differences in the association between social support and dementia: The AGES Project 10 year follow-up study
３．学会等名 The 146th American Public Health Association (APHA) Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ishihara M, Saito T, Sakurai T, Shimada H, Arai H
２．発表標題 Effect of Using Photo Collage Expressive Art Program on Depressive Mood in Healthy Elderly
３．学会等名 The 4th International Expressive Arts Therapy and Coaching Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 斎藤民，西田裕紀子，丹下智香子，大塚礼，富田真紀子，安藤富士子，下方浩史，荒井秀典
２．発表標題 高齢者の認知機能と社会的ネットワークの多様性との関連：コンボイモデルによる検証
３．学会等名 第29回日本疫学会学術総会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Ishihara M, Saito T, Sakurai T, Shimada H, Arai H
２．発表標題 Effect of Using Photo Collage Expressive Art Program on Depressive Mood in Healthy Elderly
３．学会等名 第7回日本ポジティブサイコロジー医学会学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tami Saito-Kokusho, Tokunori Takeda, Toshiyuki Ojima, Masashige Saito, Chiyoe Murata, Hiroshi Hirai, Kayo Suzuki, Katsunori Kondo
２．発表標題 Sports group participation reduces the onset of dementia among high-risk older adults
３．学会等名 The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Tami Saito, Tokunori Takeda, Hiroshi Hirai, Toshiyuki Ojima, Chiyoe Murata, Masashige Saito, Kayo Suzuki, Katsunori Kondo
２．発表標題 Risk score for onset of dementia among community dwelling older adults in Japan: An update
３．学会等名 The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Tami Saito, Hidenori Arai, Shosuke Satake, Katsunori Kondo
２．発表標題 Association between frailty, subjective cognitive impairment, and 3-year incident disability
３．学会等名 第28回日本疫学会学術総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Saito-Kokusho T, Murata C, Kondo K, Shirai K, Saito M, Takeda T, Ojima T, Suzuki T
２．発表標題 Social participation and onset of dementia in elderly men and women: A 10-year follow-up study
３．学会等名 The 144th American Public Health Association (APHA) Annual Meeting（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Tami Saito-Kokusho, Tokunori Takeda, Toshiyuki Ojima, Masashige Saito, Chiyoe Murata, Hiroshi Hirai, Kayo Suzuki, Katsunori Kondo
２．発表標題 Sports group participation reduces the onset of dementia among high-risk older adults
３．学会等名 The 21st IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Tami Saito, Tokunori Takeda, Hiroshi Hirai, Toshiyuki Ojima, Chiyoe Murata, Masashige Saito, Kayo Suzuki, Katsunori Kondo
２．発表標題 Risk score for onset of dementia among community dwelling older adults in Japan: An update
３．学会等名 The 21st International Epidemiological Association World Congress of Epidemiology（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	村田　千代栄 (Chiyoe Murata) (40402250)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・老年学・社会科学研究センター・室長 (83903)	
研究分担者	櫻井　孝 (Takashi Sakurai) (50335444)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・もの忘れセンター・センター長 (83903)	
研究分担者	荒井　秀典 (Hidenori Arai) (60232021)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・　　・理事長 (83903)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	石原　眞澄 (Masumi Ishihara) (70759597)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・老年学・社会科学研究センター・研究員 (83903)	